

平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年1月27日

上場会社名 株式会社 ナガワ

上場取引所 東

コード番号 9663 URL <http://www.nagawa.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 高橋 修

問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役管理本部長 (氏名) 矢野 範行

TEL 048-648-6111

四半期報告書提出予定日 平成26年2月7日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	17,326	10.2	2,404	8.1	2,503	8.1	1,407	8.6
25年3月期第3四半期	15,718	△14.7	2,225	△25.5	2,315	△24.7	1,295	△23.3

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 1,434百万円 (11.1%) 25年3月期第3四半期 1,291百万円 (△22.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	
	円 銭	円 銭	
26年3月期第3四半期	99.86	—	
25年3月期第3四半期	87.92	—	

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産	
	百万円	円 銭	百万円	円 銭		円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	35,402	—	29,690	—	83.9	2,133.61	—
25年3月期	35,247	—	29,137	—	82.7	2,052.54	—

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 29,690百万円 25年3月期 29,137百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	25.00	25.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	25.00	25.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	23,500	9.5	3,400	14.2	3,500	12.8	1,800	4.0	126.80

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(注)詳細は、添付資料P.3「サマリー情報(注記事項)に関する事項(1)当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)  
② 期末自己株式数  
③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期3Q	16,357,214 株	25年3月期	16,357,214 株
26年3月期3Q	2,441,599 株	25年3月期	2,161,607 株
26年3月期3Q	14,097,931 株	25年3月期3Q	14,738,560 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算短信補足情報説明資料の入手方法について)

四半期決算短信補足情報説明資料については、速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、政府の経済政策等により、円高修正・株高で景況感の改善が見られ緩やかに回復しつつありますが、欧州・新興国の景気動向及び消費税増税後の景気減速懸念等、依然として先行きは不透明な状況となっております。

ユニットハウス及び建設機械レンタル業界におきましては、国の公共工事予算の増加等を背景に公共投資が堅調に推移するほか、住宅投資も消費税率引上げに伴う駆け込み需要もあって、増加してまいりました。また、民間設備投資については、非製造業を中心に持ち直しの傾向が見られ、建築工事については大手企業を中心に依然として増加傾向にあるものの、先行きについては増勢の鈍化が見受けられます。一方、震災復旧・復興の本格発注に対し建設資源が集中する東北地方での労務・資材不足が都市部だけでなく地方にも波及しはじめており、建設費用の高騰や工期の開始遅延等が見られるとともに、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動等、今後の建設動向にとっての懸念材料も含まれた状況でありました。

このような情勢のなか、当社グループは、モジュール建築（プレハブ建築）・システム建築の技術・ノウハウを活用し工場、倉庫、店舗等の受注を拡大していく一方、ユニットハウスにおいては各工場の生産能力を強化し、拡大するレンタル需要に対応してまいりました。また、7月に発生した山口県萩市集中豪雨に伴う応急仮設住宅の建設や、東日本大震災の被災地域における復興工事向けの仮設現場事務所を供給するとともに、事務所再建をはじめとした震災復興と被災者の生活再建に尽力してまいりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は173億2千6百万円（前年同期比10.2%増）、営業利益は24億4百万円（前年同期比8.1%増）、経常利益は25億3百万円（前年同期比8.1%増）、四半期純利益は14億7百万円（前年同期比8.6%増）となりました。

セグメント別の概要は次のとおりであります。

#### （ユニットハウス事業）

ユニットハウス事業におきましては、一般建設市場の開拓については、大規模建築のモジュール建築（プレハブ建築）・システム建築から、従来の小規模建築に強みのあるユニットハウス建築まで扱えるオールラウンドな営業・製造体制をさらに強化してまいりました。

また、同業他社が依然として震災地域に一極集中するなか、当社は全国的にバランスの取れたレンタル資産配分と備品や付帯工事をセットにした提案営業を強化することにより、レンタル稼動がほぼ全域で前年を上回って推移いたしました。

一方、海外におきましては、ブラジルに続いてインドネシアの「PT. NAGAWA INDONESIA INTERNATIONAL」ならびにタイの「NAGAWA (THAILAND) CO., LTD.」の2社を新たに連結対象子会社とし、モジュール建築（プレハブ建築）及びユニットハウス建築の生産・受注営業に注力してまいりました。

以上の結果、レンタルにつきましては、受注増加による稼動棟数の増加や単価の持ち直しにより、全国的に堅調に推移いたしました。販売につきましては、中古ハウス販売が前述のとおり全国的にレンタル稼動が高水準で推移したため、販売用ハウスの確保が難しく前年を下回って推移いたしました。工場や大型倉庫等モジュール建築（プレハブ建築）・システム建築の完工が大幅に増加し、販売全体の売上高を押し上げました。

この結果、当事業のセグメント売上高は164億7千6百万円（前年同期比10.4%増）となりました。また、営業利益はレンタル稼動率の向上による粗利益率の改善や全社的なコストダウン効果に加え、レンタル単価の持ち直し等により、27億1千4百万円（前年同期比8.8%増）となりました。

#### （建設機械レンタル事業）

建設機械レンタル事業におきましては、営業エリアである北海道南部建設市場の公共工事請負金額にも回復の兆しが見られるなか、建設機械販売の増加や、地域に密着した営業活動の強化と貸与資産管理の緻密化による資産効率の向上や固定費の圧縮に努めるとともに、カーコンビニ倶楽部の自動車整備部門の設備投資を行なう等、サービスの拡充に注力してまいりました。

この結果、当事業のセグメント売上高は8億5千万円（前年同期比7.6%増）となりました。また、損益につきましては、同業他社との価格競争激化や昨年前倒しで行なった貸与機械の更新投資に伴う定率償却初年度負担増があり、運送費や修繕費の抜本的見直し等による経費削減が下期から大きく寄与したものの上期の損失を埋めるまでは至らず、営業損失は1億4百万円（前年同期の営業損失は6千2百万円）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### （資産）

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末に比べ4億9百万円減少し、156億5千8百万円となりました。その主な要因は、受取手形及び売掛金が3億8千8百万円、信託受益権が2億5千9百万円それぞれ増加した一方、現金及び預金が10億2千3百万円減少したこと等によるものであります。固定資産は、前連結会計年度末に比べ5億6千5百万円増加し、197億4千4百万円となりました。その主な要因は、貸与資産が5億4千

1 百万円増加したこと等によるものであります。

この結果、総資産は、前連結会計年度に比べ1億5千5百万円増加し、354億2百万円となりました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べ3億8千2百万円減少し、55億1千万円となりました。その主な要因は、ファクタリング未払金が3億8千3百万円増加した一方、未払法人税等が4億5千3百万円、買掛金が2億9百万円それぞれ減少したこと等によるものであります。固定負債は、前連結会計年度末に比べ1千5百万円減少し、2億1百万円となりました。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べ3億9千7百万円減少し、57億1千2百万円となりました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ5億5千3百万円増加し、296億9千万円となりました。その主な要因は、利益剰余金が10億2千3百万円増加した一方、自己株式が5億2百万円増加したこと等によるものであります。

この結果、自己資本比率は、83.9%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年3月期の連結業績予想につきましては、平成25年5月7日の「平成25年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はございません。

なお、今後の見通しにつきましては、引き続き検討を行い、連結業績予想に関し修正の必要が生じた場合には、速やかに開示するものであります。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

なお、第1四半期連結会計期間より、PT. NAGAWA INDONESIA INTERNATIONALならびにNAGAWA (THAILAND) CO., LTD. の2社を新たに連結の範囲に含めております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,121	5,097
受取手形及び売掛金	6,941	7,330
商品及び製品	1,383	1,407
仕掛品	67	110
原材料及び貯蔵品	254	323
繰延税金資産	152	93
信託受益権	833	1,092
関係会社短期貸付金	78	—
その他	246	214
貸倒引当金	△10	△11
流動資産合計	16,067	15,658
固定資産		
有形固定資産		
貸与資産（純額）	10,083	10,624
建物及び構築物（純額）	1,458	1,413
土地	6,499	6,499
建設仮勘定	0	6
その他（純額）	160	205
有形固定資産合計	18,202	18,750
無形固定資産	99	104
投資その他の資産		
長期預金	100	100
投資有価証券	246	249
敷金及び保証金	372	383
繰延税金資産	107	82
その他	55	77
貸倒引当金	△5	△3
投資その他の資産合計	876	889
固定資産合計	19,179	19,744
資産合計	35,247	35,402

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,588	1,379
ファクタリング未払金	1,750	2,133
未払法人税等	893	439
賞与引当金	199	128
役員賞与引当金	66	49
資産除去債務	1	1
その他	1,392	1,377
流動負債合計	5,893	5,510
固定負債		
退職給付引当金	0	1
長期未払金	52	52
負ののれん	15	—
資産除去債務	68	68
その他	79	79
固定負債合計	217	201
負債合計	6,110	5,712
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,855	2,855
資本剰余金	4,586	4,586
利益剰余金	23,782	24,806
自己株式	△2,110	△2,613
株主資本合計	29,114	29,635
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	25	51
為替換算調整勘定	△3	4
その他の包括利益累計額合計	22	55
少数株主持分	0	—
純資産合計	29,137	29,690
負債純資産合計	35,247	35,402

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
売上高	15,718	17,326
売上原価	8,815	10,072
売上総利益	6,902	7,254
販売費及び一般管理費	4,677	4,849
営業利益	2,225	2,404
営業外収益		
受取利息	4	4
受取配当金	2	2
受取割引料	11	12
受取賃貸料	41	38
譲受関連収益	7	5
負ののれん償却額	15	15
為替差益	—	2
雑収入	20	19
営業外収益合計	103	101
営業外費用		
為替差損	11	—
雑損失	1	3
営業外費用合計	12	3
経常利益	2,315	2,503
特別利益		
固定資産売却益	2	0
関係会社株式売却益	—	9
特別利益合計	2	10
特別損失		
固定資産処分損	34	5
特別損失合計	34	5
税金等調整前四半期純利益	2,282	2,508
法人税、住民税及び事業税	837	1,036
法人税等調整額	149	71
法人税等合計	987	1,107
少数株主損益調整前四半期純利益	1,295	1,400
少数株主損失(△)	—	△7
四半期純利益	1,295	1,407

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,295	1,400
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2	25
為替換算調整勘定	△2	8
その他の包括利益合計	△4	34
四半期包括利益	1,291	1,434
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,291	1,440
少数株主に係る四半期包括利益	—	△5

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間（自平成24年4月1日 至平成24年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	ユニット ハウス事業	建設機械レ ンタル事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	14,927	790	15,718
セグメント間の内部売上高又は振替高	1	0	1
計	14,928	791	15,720
セグメント利益又は損失（△）	2,496	△62	2,433

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,433
セグメント間取引消去	—
全社費用（注）	△208
四半期連結損益計算書の営業利益	2,225

(注) 全社費用は、主に親会社の本社総務部、経理部及び企画室に係る経費であります。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自平成25年4月1日 至平成25年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	ユニット ハウス事業	建設機械レ ンタル事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	16,476	850	17,326
セグメント間の内部売上高又は振替高	0	7	8
計	16,476	857	17,334
セグメント利益又は損失（△）	2,714	△104	2,610

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

利益	金額
報告セグメント計	2,610
セグメント間取引消去	—
全社費用（注）	△205
四半期連結損益計算書の営業利益	2,404

（注）全社費用は、主に親会社の本社総務部、経理部及び企画室に係る経費であります。